

あいさつ運動やボランティア活動を中心とした小中連携

ねがい

〈目的〉

児童・生徒が人の役に立つことで充実感や有用感を味わい、活動を通して規範意識や自尊感情を高めるために、地域に密着したあいさつ運動やボランティア活動を小・中で連携して行いました。

〈内容〉

つながり

● 地域と小・中学生が連携したあいさつ運動

毎月第1月曜日を「あいさつの日」と設定し、地域（老人会や自治会、PTA、子ども会、青少年健全育成連絡協議会等）と協力しながら、中学生が小学校に出向き、小・中学生と一緒にあいさつ運動を行っています。また児童会や生徒会が中心となってあいさつ強調月間を設け、積極的に全校に呼びかけることにより、あいさつ運動への意識を高めています。

● 校内や地域でのボランティア活動の推進

各小学校では、あいさつや清掃、栽培などの活動を担当委員会が積極的に全校生に呼びかけ、ボランティア活動を推進しています。活動者にはバッジや感謝状を配付するなどして、賞賛しています。中学校でも定期的なボランティアの登録者を募り、その登録者が活動内容を全校生に提案し参加者を募って、ボランティア活動の輪を広げ、校内や地域でのボランティア活動を行っています。ボランティア経験により、3種類の会員バッジを発行し、意欲付けを図っています。



【地域と連携したあいさつ運動】

● 積極的に地域行事に参加し、地域に貢献する児童会・生徒会活動

児童や生徒が地域行事などに積極的に参加しています。

- ・ EM団子投げ大会（総合学習でのEM団子作り）
- ・ 旧高松城まつり
- ・ 現代源平屋島合戦絵巻（小学校金管バンド、中学校美術部、吹奏楽部が参加）
- ・ ふるさと伝承あそび

上記の地域行事にボランティアとして参加し、地域の一員としての役割を担いました。



【小・中が源平屋島合戦絵巻に参加】

〈成果〉

小・中学生が地域の人と一緒にあいさつ運動やボランティア活動、地域行事に参加することで、地域の人々とふれあいの輪が広がり、校区の人々の願いを知り、故郷や地域をよくしよう、もっと知りたいという気持ちが児童・生徒に高まってきています。

また、活動を通して、地域の一員として地域に貢献しようという自覚が芽生えつつあります。

高まり